

# 地域共生社会を 夢見た人々

入場無料



(福)報恩積善会提供

田  
淵  
藤  
太  
郎



養  
老  
院

(福)報恩積善会提供



点  
字  
ブ  
ロ  
ッ  
ク

三  
宅  
精  
一



(一財)安全交通試験研究センター提供

2019年11月27日(水)午後2時～4時30分(予定)  
山陽新聞社さん太ホール(岡山市北区柳町)

講  
演



井村 圭壯

岡山県立大学教授

高齢者福祉今昔物語  
—田淵藤太郎と報恩積善会—



本間 律子

社会福祉法人聖明福祉協会  
盲養護老人ホーム聖明園曙荘副園長

点字ブロックの誕生  
—三宅精一と岩橋英行の友情物語—



岡山市北区の農家に生まれた田淵藤太郎(1876~1928)。24歳のとき、大望を抱いて渡米するも事業に失敗して帰国。笠岡市の孤児院・甘露育児院に務めたことから社会事業を志すようになる。1912(大正元)年妻のはつと岡山市下石井に報恩積善会を創立し、自宅に臥す高齢者の巡回介護や薬湯への入浴支援を始める。「年老いた親は子が養うことがあたりまえ」といわれた時代に、「貧困は社会にも責任がある」と説き高齢者の支援を続けた。



地域共生社会のシンボルとして盆踊りが始まった  
(岡山市津島地区) (福) 報恩積善会提供

町の発明家としても知られていた倉敷市の三宅精一(1926~1982)。白い杖

をついて交差点を渡っていた人が車にひかれそうになるのを目撃したことから、「視覚障害者の安全歩行」に役立つものを開発したいと決意。私財を投げ打って研究開発を続け、1965(昭和40)年に点字ブロックを考案した。そして70年からは鉄道のホームや公共施設内にも敷設され、国際規格にも採用されて世界中に普及していく。点字ブロックはバリアフリーの象徴として社会に認識され、価値観の面でも先導的役割をも果たしていった。



点字ブロック敷設の歩道が完成  
盲学校生徒が渡り初め(1967年、岡山市の国道2号)  
(一財)安全交通試験研究センター提供

シンポジウムではふたりの研究者を招き、高齢者も障害者も健常者も助け合いながら地域で生活していく「地域共生社会」の実現に尽くした田淵藤太郎と三宅精一の生涯と思想、またその実践を明らかにし地域福祉の先駆的意義を考える。

## 出演者プロフィール

### 井村 圭壯 (いむら けいそう)

広島県出身。岡山県立大学教授。博士(社会福祉学)。専門は社会福祉事業史、社会福祉学原論。特に、戦前期の養老院の実践史を「救護法」「社会事業法」との関連から研究している。高知県立高知女子大学大学院博士後期課程修了。聖カタリナ女子大学助教授などを経て、2007年より現職。2007年日本福祉図書文献学会学術賞受賞。著者に『日本の養老院史』『日本の社会事業施設史』『社会事業施設団体の形成史』『戦前期石井記念愛染園に関する研究』など、論文多数。

### 本間 律子 (ほんま りつこ)

社会福祉法人聖明福祉協会 盲養護老人ホーム聖明園曙荘副園長。京都府出身。博士(人間福祉)。専門は視覚障害者福祉、社会福祉史。特に、功績があったにも拘わらず、研究からもれた人物を当時の時代背景や社会情勢を基に研究している。岡山県立大学修士課程修了。関西学院大学大学院人間福祉研究科博士課程後期課程修了。同大研究員などを経て、2016年より現職。2011年第2回吉田久一研究奨励賞受賞。著書に『盲人の職業的自立への歩み-岩橋武夫を中心に』。編著に『福祉にとっての歴史 歴史にとっての福祉 人物で見る福祉の思想』など。

ご希望の方には「優待席」をご用意します。  
この用紙のままFaxでお申し込みください。 **10月31日(木)必着**

お名前(企業名)	
〒	
ご住所	
申込人数	※ 2名までとさせていただきます。
ご連絡先(電話など)	
<b>fax 086-225-5046</b>	
優待席お申込は、ハガキ、e-mailでも受け付けます。	
◆ e-mail nichiran@rsk.co.jp	
◆ ハガキ宛先 〒700-8580 RSK山陽放送内(公財)山陽放送学術文化財団	
◆ 申し込みは1枚(1回)につき2人迄となります。(複数応募不可)	
<b>希望者多数の場合は抽選とさせていただきます。</b>	
「優待席のご案内」はハガキでお知らせします。	

絶賛発売中!

「岡山蘭学の群像  
1・2・3」

定価	1・2 本体 1400円+税
	3 本体 1600円+税

「慈愛と福祉  
岡山の先駆者たち1」

定価	本体 1600円+税
----	------------

今回は

**慈愛と福祉の先駆者たちⅧ** テーマ:「三木行治」

令和2年2月6日(木)午後2時(予定)  
山陽新聞社さん太ホール